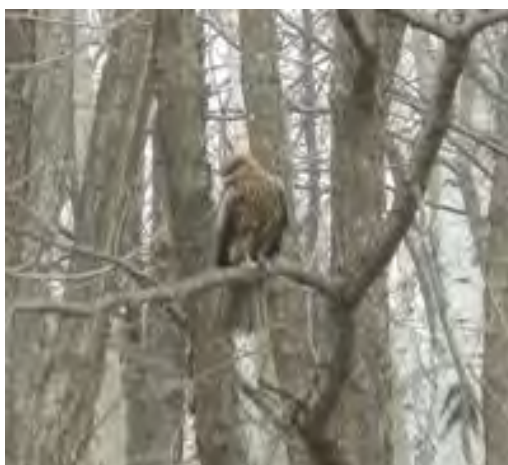


トビ



澄川の森の雪解け水溜まりで賑やかに鳴いていたエゾアカガエルの声がフィットと止みシーンと静まりかえりました。酒井さんがあれはトビか?と水溜まりの上空に張り出した枝に止まっている猛禽を指差して私に尋ねました。もしかしてオオタカかと思いましたが、トビでした。早速映像をゲット。トビは一旦飛び立ちましたが、またぞろ木々の梢近くの上空を旋回しているのを見ていましたら、いきなり体をひねり翼を体側にたたみこんで水面めがけて急降下。水面すれすれをかすめて急上昇。足にはなにも掴んで

いなくカエル狩はあえなく失敗。カエルたちもしたたかでした。これまでもこの時期にカエルを狙ってヤマセミ、アオサギの肉食系の鳥たちが来たことがありました。2012年4月24日。昼飯休憩時のことでした。

トビの飛翔は翼を羽ばたかせることをほとんどしない帆翔で翼の面積比で体重が小さいことがよくわかります。札幌市街の上空でもしばしば見ることができますので、知名度はかなり高い鳥だと思います。猛禽たちは毎年同じ巣を使います。トビの場合、大木の枝にカラスの巣より大き目の巣を作り、毎年補修をしますので、段々と大きくなり熟年夫婦ともなればワシの巣か?と思うほどの大きなものがあるそうです。外見だけでは雌雄の識別はまずできません。空中シルエットでは半分ほどしかないと見えるカラスになめられて挑まれ1対1でもあしらわれているのを見ると猛禽の猛の字を汚しているようで、情けなく思ったりします。

分布は日本全国。土地によって習性がかなり違って、長崎県生月島の漁港で見たトビたちはまるでカモメやカラスも顔負けの存在でした。数が多いこともさることながら獲魚を仕分けしているオバサンたちが商品価値のない小さい雑魚を網から外してポイポイと海面に抛るのです。それをめがけてトビたちがつぎからつぎへと急降下して足で掴みさらってゆきます。獲物を掴む瞬間に尾羽が海水に触れて濡れます。それでこの島のトビたちはおしなべて尾羽がよれよれで貧相に見えました。

この日の主な作業で駐車場と基地周りの掃除伐の雑枝をチップパーで粉碎しました。すっきりと片付きましたが、酷使にぶち切れたのかチップパーが終にへこたれ故障発生。少し作業が残りました。

